

# 行政視察報告書

令和5年1月18日

西脇市議会  
広報広聴特別委員会

- 1 視察実施日  
令和5年1月18日（水）
- 2 視察先  
三田市議会
- 3 視察事項  
高校生議会について
  - (1) 高校生議会を実施するにあたって、三田市は高校の数も多いが、普段授業等で忙しい学校側の理解や協力をどのようにして得られたか。
  - (2) 多くの高校の中から、高校生議会に登壇する生徒をどのように選抜しているのか。
  - (3) 高校生議会開催における準備段階でのポイントは。
  - (4) 議会ではなく行政が主体となって行う高校生議会のメリット・デメリットは。
  - (5) 高校生議会からの提案で、実際に政策に反映できた事例は。
- 4 参加者  
広報広聴特別委員会  
委員長 村岡 栄紀                      副委員長 高瀬        洋  
委員 藤原 秀樹                              藤原 哲也  
         森脇 久夫                              藤原 桂造  
         坂部 武美                              (寺北 建樹 欠席)  
事務局 金子健太郎

## 所 感

村岡 栄紀

三田市の「高校生議会」は、行政（子ども・未来部子ども未来室健やか育成課）が主体となって、平成26年より継続して8回開催されており（コロナ禍においてもオンラインやハイブリッドにて開催するとともに、違う学校同士がペアになって行うペア枠も実現）、高校生の健全育成のための施策としてしっかりと根付いている感があります。ただし、議会が関わることはほとんどなく、議会は議会当日に正副議長が傍聴し、議長が講評を述べるだけのようで、本市においては、このやり方での実現を議会から行政に働きかけることは難しいと考えますが、あくまでも議会が主体となって実施し、それを行政がサポートするといったことはできるのではないのか、また、議会単独で実施するとしても、「高校生議会」に対する考え方や、実施方法などは大変参考になり、非常に有意義な視察でありました。

まず、三田市にある12の高校全てに対して、事業説明を行い、聞き取りの中で、学校側にとってのメリットをしっかりと理解してもらっているという点です。「生徒会活動」の一つと位置付けることで有効な活動であるという考え方は、多可町議会でも学ばせていただきましたが、「探求学習」に対するアクションとして、高校生議会で提案することで、高校生が探究の問いを深めることにつながったりするといった、時流に非常にマッチした取組となっているのが素晴らしいと感じました。西脇市議会では、学校が「高校生議会」や「高校生版議会報告会」の開催に時間を割くという事は、授業進行の妨げになったり、進学面でも何のメリットもないので、かえって学校に迷惑がかかるのではといった意見があったりするのですが、それは時代遅れでナンセンスな考え方であり、「高校生議会」が、生徒会活動としてだけでなく、未来への探究などを通じて、学業面をはじめとする様々な点において大きなプラスになるということを、しっかりと伝えていかなければならないことを明確に認識しました。

次に、三田市においては「高校生議会」が毎年恒例の行事となっているため、学校行事に組み込まれているところがほとんどであり、開催の告知をすれば、選択肢の一つとして、人数枠を決めて学校側から生徒を推薦してもらえるとといった仕組みになっており、生徒さんを募集する苦労はほとんどないということです（「三田市高校生議会議員推薦書」「三田市高校生議会 出席者・質問テーマ・骨子報告票」「三田市高校生議会 参加同意書」「三田市高校生議会ガイドンス」などのフォーマットが非常に充実しているのに加え、YouTubeでライ

ブ配信することにより広く周知)。どんな施策にしても人を集めるという事が最も難しいことだと考えますが、これを学校側に任せることができているおかげで、高校生議会自体のコンテンツや質の充実に集中できている点は大いに参考になるとともに、これからは、「高校生議会」の経験を通じて高校生が地域課題解決のシンクタンクとなるといった、三田市の明るい未来を予測させられているようでした。

最後に、西脇市議会において現在実施している「高校生版議会報告会」(コロナ禍で現在休止中)をさらにブラッシュアップ&レベルアップした「高校生議会」の開催を目的として、議会が主体の多可町と、行政が主体の三田市に視察に伺いましたが、どちらも非常に参考になる点が多く、両者の良いところを上手に融合していきながら、西脇市議会だけでなく、西脇市にとっても、そして西脇市の高校と西脇市の高校へ通学する高校生がお互いに Win-Win の関係を構築できるような、「探究学習」の要素がいっぱい詰まったハイレベルな「高校生議会」の実現に向けて、努力して参る所存です。

高瀬 洋

1月18日水曜日、今後の西脇市での高校生議会開催の参考として三田市議会を訪問し取組状況等を視察しました。

三田市では、過去7回高校生議会を開催され、今年度も2月5日日曜日に18人の高校生議員により開催を予定されている。昨年11月に訪問した多可町との違いは、議会ではなく行政側の事業として取り組まれていることや、多可町は多可高校1校が対象(町内では1校しかない)なのに対して三田市内の10校以上の複数高校を対象として開催されていること。また、答弁は所管の部局や市長が行っていること。参加する生徒は学校推薦で受け付け、最初は生徒会の生徒が中心の開催であったが、最近では生徒会以外の生徒が多いとのことでした。

「議会や議員の関わりはどうか」「高校側の窓口や連絡方法は」「参加する生徒の募集方法や生徒会との関係」「立ち上げ時、高校側の参加協力を得るための苦労等があったのか」「学校や参加した生徒の反応」など多くの質問を行いました。

三田市のような取組を市議会が行うことはかなり負荷が高いと思いましたが。今後は、以下の項目について、委員会で協議していく必要がある。

- ① 三田市のように毎回複数校に参加してもらい開催するのか。それとも1校ずつの開催とするのか。(高校側の賛同が得られるのか)
- ② 答弁は多可町のように議員がするのか。三田市のように所管の部で行うのか。(議会事務局の負荷への配慮も必要)

- ③ 参加する生徒の数等の開催規模や各議員の役割。開催の時期
- ④ (西脇市外の生徒の参加もあるので) 一般質問のテーマ等についての考え方の整理等

藤原 秀樹

今回、三田市議会さんに行き、高校生議会の取組について学んできました。

三田市は、健やか育成課が行政事業として行っており、議会としてはあまり関わっておらず、これと同じものを西脇市議会で行うのは困難だと思いました。しかし、とても良い高校生議会を行われていますので参考になることは多いです。三田市には12の高等学校があり、各学校から推薦された生徒により行われています。高校生議会だけでなく社会教育事業の「こうみん未来塾」や「学生サミット」などで日ごろから高校との連携の一環としての「高校生議会」があると思いました。前回は行った多可町議会さんと同じく生徒会活動の一環として生徒が選抜されています。質問を作るうえで生徒とのワークショップが重要で、そこで生徒の思いを丁寧に掘り下げ、市の事業や方針を説明しながら生徒がどんな思いでそのテーマに着目したか、どんなことを問題視しているか、どんな未来を描いているかなど具体化していき、テーマや質問を深めていくことが重要だと学びました。西脇市では議会が主体となって高校生議会を行っていくのであれば、生徒にどうすれば政治への関心を深めてもらえるか、政治家を目指す若者に関心をもっていただけるかを考えなければならないと思いました。

三田市議会からいただいた資料の中に、議会だより8月号、10月号、12月号が入っており、紙質や造りなど、とても読みやすくスマートで良い議会だよりになっています。参考にできると思いました。高校生議会も重要ですが、最も重要なのは、市民の皆様に伝え、政治に関心をもっていただくために、議会だより改革に力を注ぐべきではないかと思いました。あれもこれもではなく一つ一つその年の課題に取り組んでいくべきではないかと思います。

藤原 哲也

今回、高校生議会の開催を定着化された、三田市高校生議会の取組を学びに視察訪問させていただきました。

三田市さんの開催は当初は中学生を対象に、平成26年に記念事業として開催され、参加された中学生は市の一般募集で24人(私立中学校8校)が参加され、班ごとに取組をされたとお聞きしました。翌年からは高校生議会としてスタートされ、足掛け9年の開催をされている。今では定着し、今年の参加高校は8校で18人の高校生が参加されると

お聞きしました。

これまで参加された高校生の感想を拝見すると、「学校の探究活動を通して気になっていた問題点なので、今回質問したことにより、今後どのようにこの問題点を社会に広めていくのか、また、その解決策を見つけ出すのかヒントを得られた。」と述べられていました。

今では、高校生議会の録画を YouTube で発信され、御家族や友達が視聴され高校生議会の浸透が進んでいました。公職選挙法の改正により成人年齢が18歳以上に引き下げられたことから、YouTubeでの発信は高校生に政治に興味を持っていただく良い機会の提供の場であると感じました。

職員から、高校生議会に携わった子どもたちが二十歳になった時、「二十歳の集い」のイベントに役員として参加してくれるようになった、とうれしいお話をお聞きしました。

三田市さんの高校生議会の運営は健やか育成課の職員が担当され、通常は2人で運営をされている関係もあり、高校生議会開催日がスケジュール的にタイトであるため1月下旬から2月第1日曜日に開催するとお聞きしました。西脇市では、8月の夏休みに開催も可能ではないか。開催日は今後検討課題である。

#### 森脇 久夫

三田市における高校生議会の取組が、市長部局である「健やか育成課」の事業であることが、西脇市議会が議会として取り組もうとしていることと大きく異なっている。

市長部局であれば、業務として目的を達成するための取組になるが、議会（議員）が担当した場合には、それが主業務ではないため、空いた時間を使っての取組になり、三田市と同様のレベルで行うことはかなり難しいと考える。加えて、三田市では他業務も担当しているものの正職員2人と会計年度任用職員1・2人で対応していることから、議会事務局の力を借りての取組とし、高校数が少ないことでの業務を割り引いたとしても、現スタッフの負荷が増すことになり、それにも課題があると考えます。

また、三田市内には12の高校があり、それぞれの高校に参加を求めて8校程度から参加者があるとのことだったが、これも市の社会教育の位置付けとしていることが、高校側の参加に対するハードルを下げているものと考えます。そして、開催が7回目となっていて、多可町議会主催の高校生議会と同様、運営に関してかなりの部分がルーチン化できていると思われ、参加しやすく、また運営しやすくなってきていると考えます。

いずれにしても西脇市議会として実施する場合、まずどのようなコン

セプトで行うかを整理した上で、高校生議会の運営に関する原案を作り、市内3高校に提案して、高校側と協議しながら最終的な運営方法を作り上げることが、成果を出すことのできる高校生議会を作り上げる大切なポイントと考える。

#### 藤原 桂造

1月18日水曜日、三田市が主催する高校生議会について、健やか育成課長、係長、そして議会事務局長からお話を伺いました。

まずは高校生達が議員として質問する過程において、あらかじめ質問骨子として提案事項を設定する。(生徒や校長以下学校の先生方のアドバイスもあったと思います。)

内容の提案事項を見る限り、高校生本人の意思が強いものなのかそれとも他からもアドバイスがあり、無難に質問されているのかどちらかなと感じ取りました。

そして、私個人として、三田市において大学専門学校の誘致提案がなかったのはなぜかなと気になったのですが、健やか育成課からは恐らく三田市は、阪神間にアクセスしやすいので(市外の大学に行きやすい)高校生自ら誘致についての提案事項はなかったのかと思います。との説明でした。

※現在三田市には、湊川短期大学、関西学院上ヶ原キャンパスの2校が、高校は支援学校併せて12校が所在している。

※令和4年度においては実際の本会議場とオンラインの両方式、ハイブリッド形式で実施したとのこと。

あと気になったのは、高校生議会は各高校から開催希望が強かったのか、それとも市から開催希望があったのかしつかり聞いておくべきでした。

※三田市議会が主催ではないとのこと。

#### 坂部 武美

三田市高校生議会は、市長部局の子ども・未来部ー子ども未来室ー健やか育成課が担当し、8月の方針決定から市内の公立高校4校、特別支援学校3校、私立高校2校、通信制高校3校の計12校への事業説明、ワークショップ、質問書・答弁書の決定などを経て、2月の高校生議会本番まで、準備にかなりの時間を要し、高校生議会に占める事務量は、担当者2人の約50%を費やしているとのこと。

西脇市に置き換えれば、議会ではなく企画調整課や教育委員会が担当するとなれば、行政側は簡単に、「はい分かりました」とは言わないだろう。

では、議会が担当するとなれば、事務局の負担がかなりハードとな

る。となれば、議員が担当するしかないのだが、その場合、準備から学校・質問する生徒との調整、理事者の答弁書のすり合わせ等、現16人の議員の力量が不可欠となる。

三田市も多可町と同様、目的は市政に対する提案等を行うことを通じて、三田市への愛着、まちづくりへの参加意欲を高め、住み続けたいと思えるまちづくりに生かすことを狙っており、もちろん、議員として議場で質問し、市政推進に意見を述べるという主権者教育の体験の場となっているが、カーブミラーの増設やポイ捨て禁止啓発看板の設置など、提案型がほとんどであり、議論を戦わせるといったとこまで期待するのは無理だろう。

ということは、主権者教育としての経験の場と位置付けるしかないのかもしれないし、毎年、十数人の高校生の議場での経験が将来に生かされることを期待するしかない。

では、具体的には、西脇市内3校を対象とするのか、市内在住で市外の高校へ通う生徒も含めるのか、募集方法、高校側の理解、理事者との調整、実施時期(三田市は2月、多可町は夏休み期間中)、予算措置等、目的と方法を明確にし、しっかりとしたスケジュールを立てなければならないが、来年度実施となれば詰めなければならない課題が多い。

多可町方式か三田市方式かで実施方法は大きく違ってくるが、西脇市議会が主権者教育の一環として高校生議会の開催を打ち出した以上、今までのような市内3高校生との意見交換会だけで済ますことはできないだろう。実施するのみである。